第９４回ＣＳＲウォッチの会合

『青年海外協力隊フィールド調査団、ケニアとガーナからの活動報告：

ケニア　「キャリア教育は児童拘置所で有効か？　―「もうここには戻らない」と思わせるための取り組み-」

松田沙弥香（帰国直後のケニア協力隊員）

ガーナ　「答えは村人が教えてくれる　～カンジャガ村でゼロからの学校建設～」

堀田哲也（活動地：ガーナ共和国）島根県海士町観光協会　契約社員、ＮＰＯ学校をつくろう代表

世界のグローバル化、また日本企業の新興国進出の増加に伴い、新興国経済やBOP(Base of the Pyramid)市場の理解の重要性が増してきています。 これらをマクロ・レベルから考察したレポートは多いのですが、村の様子や個人の消費行動など、ミクロ・レベル／現場レベルの視点からの情報はなかなか見つけることができません。 「青年海外協力隊フィールド調査団」は、そういったミクロな情報発信において、新興国の村落部で地に足をつけて活動している青年海外協力隊が貢献できるのではないか、という課題意識ではじまったイニシアティブです。途上国の村落部の家計がどうなっているのか、村でどのようなビジネスが可能なのか、村落部での教育・保健事情、ビジネスやマーケティング的な視点で村の生活を見たときにどういうインサイトが出てくるのか、等々、協力隊員の現場での活動に基づいた「気づき」を、プレゼンテーションやショート・ビデオの形式で発信致します。今回は、最近**ケニアとガーナ**から帰国された二人の発表です。（小辻洋介）

2016年 10月 12日（水）19:00 - 21:00
場所： 経済産業省本館１３階西８会議室（定員30名程度）
（地下鉄霞ヶ関、虎ノ門、内幸町）
〒100-8901　東京都千代田区霞が関１－３－１
経済産業省への地図　http://www.meti.go.jp/intro/index_access.html

［講演内容］

「キャリア教育は児童拘置所で有効か？　―「もうここには戻らない」と思わせるための取り組み-」

　青少年犯罪の多いケニア。拘置所に戻ってくる者が多い中、健全な社会復帰のための成功要因を分析。ロールモデルとの出会いと、キャリア教育が鍵という仮説から、拘置所で実際にキャリア教育を実施。

「答えは村人が教えてくれる　～カンジャガ村でゼロからの学校建設～」

　アフリカに初上陸した日本人青年が日々驚きのガーナ生活を体験しつつ学校建設をし、自立運営に向けて支援していく物語

［講師略歴］

松田沙弥香：　1989 年生まれ、千葉県出身。慶應義塾大学文学部卒業後、船橋市役所臨時職員を経て、2014 年より青年海外協力隊に参加。青少年活動隊員としてケニアの児童拘置所で教育プログラムの企画、運営を行う。2 年 8 ヶ月の活動を終え、2016 年 8 月に帰国。現在、就職活動中。

堀田哲也：　北海道千歳市出身。多摩大学卒業。卒業後パチンコ店パンドラに 12 年勤務。退職後に青年海外協力隊に合格しガーナへ 2 年間派遣。派遣中に幼稚園を建設し現在も運営中。

小辻洋介：　IFC（世界銀行民間セクター部門）東アフリカ農業投資統括

［会合参加へのプロセス］

（１）経済産業省本館への入館には、セキュリティーのため入館証が必要になります。「CSR-BOPウォッチ」の岡田(<yokada10@jcom.home.ne.jp>)に2016年10月10日（月）17時までにお名前と御所属をメールにてお知らせください。締め切り日の夜に、参加者のリストを経済産業省に提出します。この登録なしでは、入館できませんので、ご注意ください。

（２）10月12日（水）は、経済産業省本館正門受付にて18時40分から19時10分まで受け付けてもらえます。お顔のわかる身分証明書を御提示ください。

（３）受付後は、案内板に従い、13階西8会議室までお越しください。